

## ■学校経営のポイント

### 自校の道德教育の確認

小島 宏

教育再生実行会議の提言を受ける形で、文部科学省の有識者会議「道德教育の充実に関する懇談会」が、道德教科化の方向で検討を進めている。その是非は別にして自校の道德教育が批判に耐えられるものか、現状を確認し必要な方策を講じたい。

#### 学校の道德教育の基本的な考え方

まず、学校の道德教育は「道德の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行う（学習指導要領第1章総則第1の2）」ことの再確認が必要である。

#### 道德教育の目標及び内容の確認

道德教育の目標は、「道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養う。道德の時間は、各教科等における道德教育と関連を図り、補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成する（学習指導要領第3章道徳、要約）」である。

また、内容は「自分自身」「他の人とのかかわり」「自然や崇高なものとのかかわり」「集団や社会とのかかわり」で構成し、発達段階に応じて一貫指導ができるようになっている（学習指導要領解説道徳編）。

#### 道德教育の全体計画

平成元年の学習指導要領の改訂で、道德教育の全体計画の作成が義務づけられた。全体計画が、道德教育の目標を実現するために適切なものになっているか点検が必要である。その際、全教員で分担して点検し、学校における道德教育及び道德の時間の進め方についての理解を深めることが重要である。

#### 現在の道德教育への批判

ところで、現在の学校における道德教育とりわけ道德の時間の指導への批判には厳しいものがある。

現状への批判が、教科化の動きに影響していると思われる。学校は、これらの批判を真摯に受け止め、

道德教育推進教師を中心にして、現時点での改善に組織的に取り組むことが肝要である。

〈指導時間が確保できない・指導があまり行われていない〉週案や時間割で再確認し、時数管理を徹底する。教員の恣意を排除し、道德の時間及び各教科等の道德指導を確実に実施する必要がある。

〈指導内容、指導方法が不十分である〉学習指導要領解説道徳編や文部科学省「心のノート」及び「心のノート活用事例集」、教育委員会作成の指導資料、各種実践例などを活用し、指導計画に位置づけて内容を充実させる。また、学校として組織的に指導内容や計画、教材、ICT機器などについて整備し、研修を充実し、教員の指導力を向上させる。

〈評価が行われていない〉数値的評価は行われていないが、指導要録の「行動の記録」として間接的に一部評価している。この事実を全教員に周知徹底する。また、児童生徒の行動観察やアンケート調査などによって指導の効果を把握する工夫もできる。

#### 各教科等と道德の時間の立体化

各教科等においても道德の時間などとの関連に考慮し、道德教育の指導内容について各教科等の特性に応じて適切に指導することになっている。

例えば、算数科においては、「①学習活動や学習態度への配慮、②教師の態度や行動による感化、③算数科の目標の達成を通して道徳的判断力の育成、④工夫して生活や学習をよりよくしようとする態度の育成」などである。

#### 生徒指導との関連

道德教育は、生徒指導（生活指導）との関連が議論になることがある。道德の指導内容と指導要録の「行動の記録」の評価項目とをすり合わせ、関連的に指導していくことも必要である。

（こじま・ひろし＝一般財団法人教育調査研究所研究部長）

●校長のメッセージが築く学校と家庭・地域の信頼関係

## 『「学校だより巻頭言」12ヵ月 113 文例』

【編集】露木昌仙（全国連合小学校長会会長） A5判・200頁／定価 2,310円